

雪 椿 通 信



村山槐多〈裸婦〉(相澤コレクション)
1916年

昨年度収集した相澤コレクションの1点。槐多19歳の素描。17歳で画家として出発し、22歳で夭折するまで、早熟多感、異色な画才を見せた。また詩才にも恵まれた。〈裸婦〉も木炭を使った素描ながら不規則な線を何度も重ねた鉛筆素描の手法も使って描き、用具にとらわれない彼らしい描き方でまとめている。こうした素描類は、彼の数少ない油彩画や初めの2年に集中している水彩画と比べ、短い画業を過観する上でも重要である。本人は遺書の中で「自分は、自分の心と、肉体との傾向が著しくデカダンスの色を帯びて居る事を十五六歳から感付いて居ました。」と書いているように、本人の氣質と時代の空気が反映されている作品である。

中越大震災復興祈念特別展 新潟の仏像展

2006年9月30日(土)～11月12日(日)

県内各地の寺社等では、古くは飛鳥時代から、平安、鎌倉、そして近世にいたるまでの優れた仏像が大切に守られてきました。これらは、各地の信仰のありさまを伝えるばかりでなく、日本仏像史において新潟がどのような位置を占めてきたかを物語る重要な証言者ともなっています。

当館では、仏像研究の第一人者である水野敬三郎館長のもとで、平成16年から仏像等の実地調査を進めてきました。本展はこの成果をもとに、国・県指定文化財の仏像を中心として、神像、懸仏、狛犬、舞楽面、神事面なども含め、54件・82点を一堂に展観するものです。

県内の仏像については、書籍では『新潟県史』や『新潟仏像巡礼』（新潟日報社）などが詳しく、展覧会としては、当館の前身である新潟県美術館の「久比岐の文化財」（昭和52年）、「新潟県の文化財展」（昭和60年）などに出版されたことがありました。しかし、仏像に焦点を絞り、全県的な規模で実物を目の当たりにできる機会は、今回の「新潟の仏像展」がまったく初めてといえるでしょう。

展覧会の構成は、時代順に「朝鮮三国・飛鳥・奈良時代」「平安時代」「鎌倉時代」「肖像・仮面」「木喰仏」の五章からなります。佐渡・龍吟寺の観音菩薩立像は、小さいながら高い精神性を湛えた奈良時代の銅造仏。佐渡・国分寺の薬師如来坐像（図1）は、平安時代前期の一木造りの仏像で、木材自体の放つ存在感が見る者を圧倒します。糸魚川・白山神社の

十一面観音菩薩立像（図2）は、平安後期の定朝様をしめす典雅な面持ちが印象的。鎌倉時代に作られた写実性の高い肖像彫刻としては、今年の3月に新たに県指定文化財となった上越・善導寺の善導大師立像（図3）が忘れられません。そして、江戸時代後期に作られ、独特の微笑みをうかべた長岡・宝生寺の木喰仏によって展覧会は締めくくられます。これら新潟の仏像を通して、仏像一般についての興味も深めていただければ幸いです。

今回の展覧会、話題も豊富です。佐渡の仏像が多数、海上輸送されてやってきます。技法的に珍しい県内唯一の木心乾漆像（上越・照行寺）が初公開されます。中越大震災で被災した長岡の仏像が、修復を終えた姿でお披露目されます。とにかくお見逃しのないよう、ぜひ足をお運びください。

本展には「中越大震災復興祈念」との思いが込められています。仏像を単に「見世物」としてご覧いただくという意図はありません。その趣旨に賛同していただいた所蔵者の皆さんのご協力によって、展覧会は実現したのです。平成16年10月の地震以来、復興へむけた県民の努力が続けられています。永らく信仰の対象となってきた仏像の集う本展が、多くの方々に安らぎをもたらす、励ましとなることを願ってやみません。（美術学芸員 長嶋圭哉）

※県立歴史博物館で同時開催される「中世人の生活と信仰」展（7頁参照）も併せてご覧ください。

長野県信濃美術館所蔵 東山魁夷と信州の美術展

会期：2007年2月3日(土)～3月21日(水・祝)

長野県信濃美術館は、善光寺に程近い長野市の城山公園内に1966年に開館しました。当初は財団法人として発足しましたが、1969年に県に移管され、現在にいたっています。

横山大観とともに日本美術院を創立した飯田市出身の菱田春草、ロダンに影響を受けた動勢あふれる彫刻で将来を期待されながらも、32才の若さでこの世を去った安曇野出身の萩原碌山などをはじめとする「県ゆかりの作家の代表作」、そして、長野の美しい自然に魅せられた数々の作家たちによる「信州の自然を描いた風景画」を対象に、これまで特色あるコレクションを形成してきました。さらに、日本画家・東山魁夷から約900点の作品の寄贈を受け、1990年には東山魁夷館が本館に併設して開館しました。東京美術学校時代から写生旅行を重ねた信州を、東山魁夷は、「私の作品を育ててくれた故郷」と呼んでいたそうです。

この展覧会は、隣接県との文化交流を目指し、両館の所蔵品による交換展として企画されました。当初は2004年から2005年にかけて両県においてそれぞれ開催される予定でしたが、開催間近の2004年10月に中越大震災が起り、長野県ではかろうじて予定通り開催となったものの、新潟県での開催は延期せざるをえなくなってしまいました。そして、震災から2年後の今年、ようやく開催の運びとなったのです。

本展では、長野県信濃美術館と東山魁夷館のコレクショ

ンから選りすぐった日本画・洋画・版画・彫刻分野の代表作約100点を展覧いたします。東山魁夷作品では、幻想的な世界を美しい色彩で描き出した《白馬の森》をはじめ、初期作やヨーロッパでのスケッチなど、本画・習作をあわせて約40点をご覧いただけます。また、菱田春草、萩原碌山、河野通勢、池田満寿夫など、信州が生んだ優れた作家たちの代表作や、安井曾太郎、梅原龍三郎らが描いた信州の雄大な山岳風景なども見逃せません。

長野が育んだ優れた才能と、作品に描き出された信州の美しい自然、その両方を贅沢に味わうことのできるまたとない機会になることでしょう。

（主任学芸員 今井 有）



図1 薬師如来坐像 佐渡市 国分寺 平安時代前期



図2 十一面観音菩薩立像
新潟川市 白山神社
平安時代後期



図3 西澤大仏立像 上越市 善徳寺 鎌倉時代

■観覧料

	一 般	大学・高校生	中・小学生
当日券	800円	600円	400円
団体券	650円	500円	300円
前売券	600円	—	—

※団体券は20名様以上 ※中・小学生は、土・日・祝日は無料
※10月23日曜日は、中越大地震からの復興を祈念し、観覧無料。



源田香翠《蘭子図》1901年頃



山崎静子《白馬の森》1972年



山崎静子《女》1910年

■観覧料

	一 般	大学・高校生	中・小学生
当日券	700円	500円	300円
団体券	550円	400円	200円
前売券	500円	—	—

※団体券は20名様以上 ※中・小学生は、土・日・祝日は無料
※前売券の販売は12月上旬から2月2日まで

ディズニー・アート展

会期：2006年11月23日(木)～2007年1月14日(日)

新潟のディズニーファンにとって夢のような展覧会が実現しました。「眠れる森の美女」「白雪姫」「ピノキオ」「ダンボ」といったディズニーのクラシック・アニメーションのオリジナル画を長岡の新潟県立近代美術館で見ることができるのです。

1959年に全米で公開され、翌1960年には日本でも巡回され話題となった「動画芸術ウォルト・ディズニー展」に出品された作品が、2005年の冬、千葉大学で発見されたとの発表がありました。「眠れる森の美女」をはじめとするディズニー映画の制作過程で実際に使われた背景画やコンセプト・アートなどおよそ250点もの貴重な作品が45年ぶりに発見されたのです。本展覧会では、この密かに眠っていた“Missing Treasures (幻の宝物)”の中から丹念な修復が施された200点もの作品が公開されます。

さらに、米ウォルト・ディズニー社の協力により、アニメーション関連の作品資料の収蔵機関ディズニー・アニメーション・リサーチライブラリーのコレクション約300点も同時に公開されることになりました。これらの作品は、ディズニー関係者であってもめったに目にするのできないほど大切に管理されている作品です。そのほとんどは、国外へ出るのは初めての、まさに門外不出のコレクションです。

そして、何とそれらの作品の選定には、米ディズニー社の専門スタッフと共に「スタジオジブリ」が当たり、珠玉の作品が選ばれました。「ここまでやるのか」と唸らさせられるほど多くの手間をかけている制作過程、登場するキャラクターたちの表情を追求するスケッチの数々、「ここまで描かれていたのか」と驚かされる背景画、おそらく見に来られた方々は、映像では見落としてしまっていた、オリジナル画の素晴らしさに驚かれることでしょう。

本展覧会は当初、東京のみでの実施を予定していました。しかし、「中越大地震に被災した地域に何らかの力になれば」と急遽新潟での開催が決まり実現されました。このようにいくつもの奇跡的な出来事が重なり、実現したディズニー・アート展。一人でも多くの方にその魅力を堪能していただければと願っております。

ディズニー・アート展は11月23日(木・祝)から1月14日(日)まで、会期中、年末年始の12月29日から1月1日(月)の間を除いて、月曜日も含め無休で開館いたします。特に冬休みから会期末にかけては混雑が予想されます。どうぞ会期の早いうちにご来館いただき、じっくりとディズニー・クラシック・アニメーションの魅力に浸っていただきたいと思っております。



(ピノキオ (1940年)) より ©Disney

■観覧料

	一般	大学・高校生	中・小学生
当日券	1,000円	700円	500円
団体券	900円	600円	400円
前売券	800円	500円	—

※団体券は20名様以上 ※中・小学生は、土・日・祝日は無料
※前売券の販売は10月中旬から11月22日まで

平成18年度下半期の事業変更について

都合により、当館の平成18年度下半期の事業および開館日時が下記のように変更となりました。お詫びするとともに、ご理解のほどお願いいたします。(■が当初計画から変更したもの)

企画展

- ・ 9月30日(土)～11月12日(日) 新潟の仏像展
- ・ 11月23日(土)～平成19年1月14日(日) **ディズニー・アート展**
- ・ 2月3日(土)～3月21日(日) 東山魁夷と信州の美術展

共催展

- ・ 平成19年1月19日～1月28日(日) 新潟県ジュニア美術展

所蔵品展示

会 期	展示室1	展示室2	展示室3
9月16日(土) ～10月29日(日)	良寛をめぐる	両洋に見る宗教表現	渡辺義雄「古寺大観」 (前)
10月31日(火) ～12月17日(日)	相澤コレクション： 江口草玄ことばの姿	田畑あきら子と 難波田史男展	渡辺義雄「古寺大観」 (後)
12月19日(火) ～2月4日(日)	尾竹三兄弟～越堂・ 竹破・国観～	駒形十吉の眼差 ～近代日本美術	深澤素一(前)
2月6日(火) ～3月21日(水・祝)	三輪三代～大次郎・ 晁勢・晁久～		深澤素一(後)
3月27日(火) ～5月6日(日)	所蔵名品展	三芳悌吉の世界(前)	

休館日時等

- ・ 月曜休館(ただし、祝日の場合は開館、翌日休館(1/9は開館)／**月曜特別開館日(10/23、11/27、12/4、12/11、12/18、12/25、1/8、1/22、2/26、3/19)**／12月29日(金)～1月1日(明)年末年始休館／3月22日(木)～3月26日(月)臨時休館
- ・ 毎週金曜日は、午後6時30分まで開館。

所蔵品展示から 田畑あきら子と難波田史男展

田畑あきら子と難波田史男は、二人とも前途を嘱望されていましたが、若くして命を落とした画家です。あきら子は昭和15年(1940)旧巻町出身。昭和44年(1969)、28歳の若さで病気のためこの世を去ります。一方、史男は昭和16年(1941)東京都世田谷出身。昭和49年(1974)、瀬戸内海の連絡フェリーから転落し、32歳で亡くなりました。

同時期に生きた二人に出会いがあったか不明ですが、二人とも絵ばかりでなく、文学も愛し、表された作品には、共通する詩的空間が感じられます。'60年代から'70年代の学生運動盛りなりし頃、命を燃やした若者の、苦悩し、模索する内面が作品に表れています。

この夭折した二人の画家の作品から、若者の心の中に広がる不安に揺れながら、悩み、思索した、無垢で純粋な詩的世界をご覧ください。



田畑あきら子《作品》1966-67年



難波田史男《花の穂のよどり》1968年(相澤コレクション)

新潟県には古代の朝鮮半島で製作され、日本に請来（しょうらい）されたと思われる仏像があります。その一つは妙高山麓、関山神社の銅造菩薩立像で、県の文化財に指定され、前から有名です。中国南北朝時代の漢民族化した形式と様式を持ち、おそらく朝鮮三国時代、百済（くだら）で製作された仏像です。いま失われた両手はもと胸前で宝珠を持っていたと思われ、その手の形も含めて法隆寺夢殿救世観音像によく似た姿をしており、日本の飛鳥時代の仏像の源流を考える上で大変貴重な存在といえます。

今回の「新潟の仏像展」に向けて新潟県の仏像を調査して廻った時に、朝鮮三国時代の仏像がもう一つ存在することに気づきました。胎内市（旧中条町）乙（きのと）の乙宝寺に伝わる銅造菩薩三尊像です。全高13.8cm、中尊は施無畏（せむい）与願（よがん）の印を結んで反花座上に立つ菩薩像で、両脇侍は合掌の菩薩立像です。三尊が一つの大きな光背を負う、いわゆる一光三尊で、光背には火焰文様の地に三体の化仏が表わされています。これも中国南北朝時代の漢民族化した形式・様式に従うもので、台座の形まで含めて韓国の湖巖美術館蔵金銅菩薩三尊像、国立扶余博物館蔵鄭智遠銘金銅仏三尊像など、朝鮮三国時代に類似した仏像を見出すことができます。その源流は中国山東省にあり、山東省出土の金銅仏によく似たものが幾つかありますが、その一つに北齊の天保7年（556）の銘があるので、およそ東魏末から北齊（550～580）にかけての造立と考えられ、湖巖美術館や乙宝寺の像もおおよそ6世紀後半のものともみてよいでしょう。

乙宝寺の塔心礎は七世紀中葉から後半のものとする説がありますが、それを傍証する考古遺物がなく、否定的な意見もあります。『日本書紀』に大化4年（648）に設置したという磐舟柵（いわふねのき）は、地名が「柵戸」（きのと）に通じる乙附近とする推定もあり、このあたりは当時大和王権が蝦夷（えみし）と接触する最前線でした。しかしまた近辺の古墳時代の遺跡から、柵設置以前から大和の勢力につながる有力者が住んでいたことが想定されています。仏教寺院が早い時期に建てられた可能性も皆無ではないでしょう。また『日本書紀』には6世紀後半に高句麗の使者が越の国に数度来着した記事があり、越後を含む越の国と朝鮮半島との日本海経由の交渉は無視できません。乙宝寺にはほかに北齊の河

清4年（565）銘の銅造三尊併坐仏像や新羅かと思われる銅造仏立像も伝わっています。これら乙宝寺の請来仏が、古くに日本海を渡ってこの地に伝わったもので、それがあつた時期に寺域から出土したという可能性も考えてみたくになります。

始めに触れた関山神社は信濃から松本・長野を経て越後高田に至る道筋に位置しています。松本に近い北安曇郡松川村の観松院にある銅造菩薩半跏像は、顔つきや宝冠の文様が関山神社像と近く、やはり百済からの請来と思われる。そしてこれと似た半跏像が百済の扶余近くから出土しており、対馬の定林寺像を含めて百済半跏像の一つの系統が考えられますが、奈良神野寺像もそれに属することから、観松院像は大和経由の渡来仏といえそうです。秘仏ながら鎌倉時代に多数製作された模像から百済仏と推定され、また百済から難波に流れ着いたという伝承のある長野善光寺の本尊のことも考えあわせれば、関山神社像も大和・信濃経由ということになるでしょう。これに対して乙宝寺像は、日本海ルートでの渡来の可能性を考えうる貴重な存在であると思います。



銅造菩薩三尊像 胎内市 乙宝寺



金銅菩薩三尊像 韓国 湖巖美術館

あしあと

2006年4月～2006年8月

県民の美の財産Ⅳ 新収蔵・相澤コレクション を中心に

4/8(土)～6/4(日)



1,088点新蔵いただいた中から259点ご覧いただきました。



ワークショップでの1コマ、楽陶に出来たかな。

ウィーン美術アカデミー名品展 ヨーロッパ絵画の400年

7/15(土)～9/10(日)



新潟大学管弦楽団カルテットによるコンサート「モーツァルト孔琴」に、100人を超える方々が参加されました。



7/9(土)開演式でのテーブルトーク後に作図解説、ルーベンスとの対比図の一部です。



8/2(日)長岡まつりに参加し、サイコロゲームでお楽しみいただきました。

新潟県立歴史博物館の展覧会「新潟の仏像展」と同時開催。
長岡市内の2館が連携して新潟のいにしえの文化を語ります。

中世人の生活と信仰—越後・佐渡の神と仏—
2006年9月30日(土)～11月12日(日)

中世(鎌倉～室町時代)は「信仰の時代」と言われ、神仏が人々の生活に確かに存在しました。

この展覧会では、中世の信仰を示す社寺等に保管されている伝世品や遺跡出土品などを通して、中世越後人が何を信仰対象にし、どのような神仏を意識していたのかを明らかにします。

木崎山遺跡出土土鎮具
新潟県教育委員会蔵 13～14世紀前半
県指定有形文化財



一般700円 大・高500円 中・小300円
問い合わせ：TEL 0258-47-6130 FAX 0258-47-6136

イベント情報

9月～平成19年3月

●講演会（聴講無料／講堂にて／午後2時～）

10/29日
「木の文化は日本のこころ」 飯内佐斗司氏（劇作家・東京藝術大学大学院教授）

●講座（聴講無料／講堂にて／午後2時～）

館長による美術史連続講座「新潟の仏像」
9/30日 前編〈飛鳥・奈良〉 水野敬三館長
10/14日 後編〈平安・鎌倉〉



館長 水野敬三

美術鑑賞講座

- 11/ 4日 「宗教音楽入門～古今東西の聖なる調べ」(長瀬美術学芸員) 午後1時～
- 11/25日 「デザインを読む」(丸山主任学芸員)
- 12/ 2日 「書の近代～中村不折と比田井天来」(松矢主任学芸員)
- 2/24日 「信州ゆかりの作家たちとその魅力」(横山副館長)
- 3/ 3日 「美しい装幀 亀倉雄策コレクションを中心に」(宮崎学芸課長)

●解説会等

- 10/14日 学芸員によるトーク「仏像をくしらべる」〈はこぶ〉
(長瀬美術学芸員) 午後1時～
- 10/22日 館長による「新潟の仏像展」作品解説会

●ワークショップ

- 9/16日～18日(月・祝) 「仏像をつくろう～願いをカタチに～」
「びじゅつ☆体験隊」
- 10/22日 震災復興祈念 飛べ！希望の熱気球
「発見！びじゅつかん」
- 9/17日 美術館宝探しオリエンテーリング 魅力再発見
- 2/ 4日 コレクション通 part2 所蔵品の秘密を探せ

●映画鑑賞会（無料／講堂にて）

- 10/ 7日 シュワックマイエル監督作品「ファウスト」(1994)
- 11/11日 未定
- 12/ 9日 アート・ドキュメンタリー「ダブル・ブラインド」(1992)
- 1/13日 アート・ドキュメンタリー「パナマレンコ」(1997)
- 2/10日 未定

●巡回ミュージアム

- 9/16～9/24 佐渡市新穂体育館(9:00～17:00開館)
- 11/ 1日 川口中学校 } (11:00～15:30開催、
- 11/ 5日 糸魚川中学校 } (一般の方も御入場いただけます。)

○万代島美術館情報

- 「ロマンフ王朝と近代日本」展
(9月9日～11月5日)
- 「第2回 新潟の作家100人」
(11月11日～1月14日)
- 「変わりゆく戦後の日本画」
(1月20日～3月18日)

The Niigata Bandaijima Art Museum
新潟県立万代島美術館
〒950-0078 新潟市万代島5-1
(栄蔵メッセ内 万代島ビル5F)
TEL:025-290-6655 FAX:025-249-7577
ホームページ www.islanet.gr.jp/banbi/

利用案内

- 開館時間／午前9:00～午後5:00
(金曜日は6:30)
- ※観覧券の販売は閉館30分前まで
レストラン／午前10:00～午後5:00
(金曜日は6:30)
- ※ラストオーダー(食事) 午後4:00
(金曜日は5:50)
- (飲物) 午後4:30
(金曜日は6:10)
- ミュージアムショップ/
午前9:00～午後5:00(金曜日は6:30)

■休館日／月曜日(月曜特別開館日あり)

- ※ただし月曜が祝日の場合は開館し、翌日休館します(1/9は開館)。
- ※10/23、11/27、12/4、12/11、12/18、12/25、1/8、1/22、2/26、3/19の月曜日は特別開館します。
- ※3/22(休)～3/26(月)は保守点検のため休館します。
- ※12/29(金)～1/1(日)は年末年始のため休館します。

■観覧料金

- 企画展
企画展によって観覧料が異なります。
なお、企画展の観覧券で、展示室1・2・3もご覧になれます。
- 展示室1・2・3
●一般/410円(330円)
●中等教育(後期)・高校・高等専門・大学/
200円(160円)
※学生証を提示してください。
- 小学・中学・中等教育(前期)/100円(80円)
※()内は20名以上の団体料金です。
※小・中学生は土・日・祝日の観覧料が無料になります。
※障害者手帳をお持ちの方は無料になります(受付にて手帳をご提示下さい)。

ショップ&レストラン おすすめの一品

スケッチブック(1冊)……420円(税込)
水彩ワックスクレヨン……1,050円(税込)



ミュージアムショップ 三越
TEL.0258-28-4411

平日☆日替り
ランチ……720円(税込)



※写真は、ランチに含まれるメニューから数例をご紹介します。

レストラン・喫茶 広告塔
TEL.0258-29-5001

新潟県立近代美術館だより 雪情通信 第27号

THE NIIGATA PREFECTURAL MUSEUM OF MODERN ART
編集・発行 **新潟県立近代美術館**

〒940-2083 新潟県長岡市吉岡町字西掛275-14 TEL.0258-28-4111(9) FAX.0258-28-4115
http://www.islanet.gr.jp/kintbi/ e-mail kintbi@coral.ocn.ne.jp

制作・印刷 株式会社 中央印刷(〒940-0041 長岡市学校町1-9-21 TEL.0258-35-3500)

発行日 2006年9月15日